

2022 年度

大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム

長期プロジェクトコース プロジェクト報告書

これまでの取り組みと学んだこと

11 月 10 日

有限責任事業組合まちしごと総合研究所

インターンシップ生

岩本桃花・近藤亘琉・藤本里真

目次

【1】 活動内容の概要

【2】 五明金箔工芸を訪問して気付いた縁付金箔の魅力

【3】 縁付金箔の魅力を伝えるために

【4】 自分たちが学んだこと

【5】 個人目標の達成状況

【6】 謝辞

## 【1】活動内容の概要

私たちは大学コンソーシアム京都の長期インターンシップに参加させて頂き、有限責任事業組合まちとしごと総合研究所で実習をした。プロジェクト名は、「SDGs の観点からまちの活動団体さんの次の一步を応援・提案する支援プロジェクト」である。

インターンシップの内容は、金箔を広げ興味を持ってもらう方法を五明金箔工芸に提案するというものであった。五明金箔工芸は京都市下京区にある伝統工芸の事業所である。金箔を使った新しい商品を常に考えておられ、新しいことに挑戦することにとっても意欲的でいらっしゃる。五明金箔工芸では縁付け金箔を使っておられる。縁付け金箔とは、機械で裁断したものではないものである。

まず、私たちは五明金箔工芸に訪問し、縁付け金箔について学んだ。事前に送った質問内容に答えていただき、それに加えてお話をさせて頂いた。そして実際に縁付け金箔がどのようなものかを知るために金箔貼り体験をした。

ここからは今までに自分たちがやってきた概要を述べる。訪問後は、金箔、特に縁付け金箔を広め、興味を持ってもらうにはどうすればよいかについて話し合いを重ねた。最初は社会的な現状やクライアントの思いなど組み入れた背景、目的、ターゲット、ターゲットにまつわる動向、自分たちが活用できる資源、目標の順に考えた。ターゲットは子ども、大学生、外国人といった案が出たが、最終的には大学生と定めた。大学生とした理由は、これからを担っていく世代であるということ、高校生以下よりも思いが十分に伝わるのではないかと考えたからである。実施内容を決めるのはとても苦労した。五明金箔工芸の意図を組み入れながら、自分たちのやりたいこととも一致するような企画を考えるのが難しかった。今まで

0 から 1 を考えるという経験があまりなく、一層困難に思えた。

実施内容として出てきた案には伝統工芸の魅力を伝えていくためのサークルを立ち上げること、SNS アカウントの運営、イベント開催がありました。SNS アカウントの運営とイベント開催はサークル内で行うことを考えた。しかし結果が明白でないこと、自分たちの力に限界があることにより、サークルの立ち上げは行わないことにした。実現可能で、自分たちが使える時間と今ある能力で実行できることを考えなければならないことを学んだ。また目標やコンセプトも再度考え直す必要性が生じた。

議論が行き詰っていた時、受入先の方からの助言で身近なこと、社会問題、価値観から議論を展開し、そこからキーワードを拾うというやり方を実践してみた。その結果、大量生産・大量消費は現在の大きな社会問題であり、それを解決する方法として金箔と組み合わせるということに至った。更に話し合い、金箔貼り体験をしその後グループディスカッションを行うという形のイベント開催という結論となった。この企画は SDGs の中の目標 12「つくる責任つかう責任」に着目している。すべての国や人が作ること、使うことに責任を持ち、資源を無駄にしない社会を目指すことを意味している。

このイベント案を受入先の方で発表を行った。その発表会には五明金箔工芸の方にもお越し頂いた。評価は頂いた一方で、縁付け金箔の魅力を伝えることができていないという指摘も頂いた。金箔を広げることに繋がるが、それが縁付け金箔である意味を失ってしまっていた。発表会終了後は、縁付け金箔の魅力を伝えるためのイベント内容を再度考え、ブラッシュアップさせた。

結果的には、イベント開催ということで活動成果を形にすることができた。しかし、議論

は効率的に進んでおらず、何度も行き来しており、議論を上手く進めることができなかった。毎回の話し合いで議事録を書いてはいたが、こういった流れでそのような結論に至ったのかを明確にすべきだった。また、前提条件がはっきりしておらず、基盤を上手く作ることができていなかったことも反省点である。

## 【2】五明金箔工芸を訪問して気付いた縁付金箔の魅力

五明金箔工芸を訪問し、お話を伺ったり、実際に金箔貼り体験をすることで、私たちは縁付金箔の魅力を知ることができた。また、訪問後より詳しく調べていくなかで、縁付金箔の魅力をより実感することができた。

まず前提として、金箔には、縁付金箔と断ち切り金箔の2種類がある。

縁付金箔は金箔を延ばして一枚ずつ切っていく。一方で、断切金箔は、近世に開発されたものであり、金箔を紙の間に挟んでいき、最後に金箔と紙をまとめて切る。断切金箔のほうが効率的に量産でき、比較的安価であるため、近年では断切金箔が主流になっている。しかし、縁付金箔には、縁付金箔ならではの魅力があり、私たちは多くの人にそれを伝えたいと考えている。

私たちが感じた縁付金箔の魅力は3つある。

1つ目は、ユネスコ無形文化遺産に登録されていることである。縁付金箔は、日本独自の伝統製法であり、国宝や重要文化財の修復に欠くことができない技の文化財として、2020年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された。

縁付金箔があるからこそ、日本の文化財を後世に残すことができる。後世に文化財や伝統

を継承していくためには、なくてはならないものといえる。

2つ目は、正直であることである。縁付金箔は薄くて綺麗で貼った人の味がでるため、実際に貼ってみるととても面白い素材であることが実感できる。

3つ目は、重押しである。京都の箔押しの特徴はどっしりとした重厚感のある艶である。こうした仕上げを重押しと呼ぶ。重押しは、キラキラではなくマットな印象が特徴である。

### 【3】縁付金箔の魅力を伝えるために

これら3つの縁付金箔の魅力を伝えるために、私たちは、自分たちにできることを考えた。魅力を伝える方法として、SNSでの情報発信やアンケートによる商品開発も候補にあった。しかし、情報発信だけで本当に想いを伝えることはできるのか？という疑問や、アンケートを取って新しい商品の提案をするのは、私たちでなくてもできることであるとの理由から、却下となった。そして、結果的に以下のようなことを企画した。

まず、縁付金箔について知っていく中で、私たちが最も強く思ったことは、若者に縁付金箔の面白さ、縁付金箔の魅力を伝えたいということだった。また、物が壊れてもなおしながら長く大切に使う伝統工芸品について学んだことで、物を長く大切に使うことで、現在世界中で問題になっている大量消費のライフスタイルに一石を投じたいとも考えた。

そこで、私たちはこれらの想いを伝える相手を大学生に設定し、大学生に実際に金箔を貼ってもらうことで縁付金箔の面白さを感じてもらい、さらに自分で金箔を貼った物を長

く大切にしてもらうことで、大量消費のライフスタイルを変えるきっかけにってもらうことを目標に、イベントを実施することにした。

私たちが企画したイベントの実施内容は、参加者に金箔を貼ってもらい、縁付金箔の魅力を実際に感じてもらうことである。参加者に参加者自身が使わなくなった物、古くなったもの、金箔を貼りたいもの、を持ってきてもらい、それに金箔を貼ってもらう。自分で実際に金箔を貼ることによって、縁付金箔という素材の面白さを感じてもらいたいと考えている。さらに、金箔を貼ってグレードアップさせた物を、長く大切にもらうことで、大量消費のライフスタイルを変えるきっかけにもしてもらいたいと考えている。

そして、ただ金箔を貼って終わるのではなく、金箔貼り体験後にグループディスカッションを行い、自分が感じた縁付金箔の魅力や、その魅力を広げていくためにはどうしたらいいのかなどを共有する時間も設ける予定である。

#### 【4】自分たちが学んだこと

私たちがこの活動で学んだことは周囲を巻き込むことの重要性である。私たちは、大量生産・大量消費の社会に一石を投じるという究極の目標を達成するために、メンバー全員が納得できる活動を行うべきかを考えだすことに一番苦労した。夏休みにかけて行ったメンバー間での話し合いの中で、当初は京都駅や鴨川で自分たちの足で街頭インタビュー(伝統工芸品のイメージ、使うきっかけ、どんな商品が存在したら使いたいと思うか、どうすれば身近に感じるか)、自分たちの人脈を利用してインタビューを行うことに決めた。私たちはその活動の結果を五明金箔工業に伝え、伝統工芸品を身近な存在にするために、伝統

工芸品を大切な人にプレゼントするという伝統工芸品の日を制定すること。アンケートを基にした新商品の提案や改善を一緒に考えることによって、伝統工芸品がより世間にとって、身近な存在になり、大量生産・大量消費に一石を投じる活動になるのではないかと考えていた。以上の活動を行う予定であると実習先の吉田さんに報告した。しかしながら、街頭インタビューやアンケートの結果を五明金箔工業に伝えるだけでは、大量生産・大量消費に一石を投じる目標は達成できない。安易に商品開発に関わるべきではない。街頭インタビューを行うことは、身分を示したり、本来の質問以外の受け答えを考えたりと、様々な準備が必要であり、さらに労力の割に結果が得ることが出来ず、ハードルが高いため難しい。などの理由からその活動は却下されてしまった。私たちは、全員が納得して、夏休みにかけて考え、取り組んできた活動を却下されてしまったショックから一から活動を考えることに絶望やショックを感じてしまい、有効な案を考えることが出来なかった。話し合いに行き詰まっているなか、吉田さんに京都市立芸術大学の学生がおこなっているB-LABOというプロジェクトを紹介していただいた。B-LABOと合流したことにより、相談できるメンバーが増えたため、それぞれの目標に対する思いや案がたくさん出てきた。長きに渉る話し合いの結果、ターゲットを大学生に絞ったイベントを行うことに決定した。詳しいイベント内容は、大事に使っていたが使わなくなったもの、購入したが気に入らず使わなくなったものなど不要品に自らの手で金箔を貼り、アップグレードしてよみがえらせるというリユース体験である。大学生をターゲットにした理由は、これからを担い、長く人生を歩むのは若者であり、大量生産・大量消費の現在のライフスタイルに疑問を持ち、考え方や今後の消費行動を大学生をはじめとした若者にイベントを通じてもらい



たいと考えたからである。また、リユース体験を行うイベントを実行しようとした理由は大量生産・大量消費に一石を投じるという目標であるため、新しい商品を生み出すのではなく、使わなくなったものをアップグレードして、再び使うきっかけになってほしいと考えたからである。以上のイベントを行うことにメンバーは好意的であり、12月10日の実現に向けて現在もメンバーそれぞれが忙しい中、会場準備、設営、イベントの進行など参加者に満足かつ円滑に楽しんでもらえるよう話し合いを進めている。

以上の経験から、周囲を巻き込み頼る力によって、経験豊富で知識が豊富な実習先の吉田さんや池田さん、尾池さんに活動の中で積極的にアドバイスを聞き、何度も修正を加え、私たちの活動を正しい方向に導いて下さったこと。日頃から社会問題解決に向けて取り組んでいるB-LABOのメンバーと究極の目標達成のために効果的なイベントを実現するために効率的かつ、有益な話し合いを進めることができたため、私たちは、一生懸命に活動に取り組んでいると考える。社会に出てからも積極的に上司に相談したり、目標達成のために、策を考え、実行するなど周囲を巻き込むことを意識したい。

## 【5】 個人目標の達成状況

### ① 岩本桃果

目標：課題発見力・問題解決力・計画力を身に付ける

見解が広がったことやグループワークを重ねたことから、課題解決力と問題解決力が向上したように感じる。計画力については、見通しが甘くスケジュールに遅れがあったことからまだまだ不十分である。

## ② 近藤亘琉

目標：メンバー全員が納得できる活動に落とし込むこと。

どのようなイベントを開催するかについて話し合うことに時間をたくさんかけた。それぞれの主張を積極的に発言し、意見し合うことで結果、全員が納得できるイベント案を考案することが出来た。

## ③ 藤本里真

目標：主体性を持って取り組み、自分たちならではの視点で地域に貢献する。

目標達成：活動内容を定めることができず先が見えなかった時期に、スケジュールを立てたり、メンバーに声かけをするなど自分で考えて行動できた。企画についても、自分たちが伝えたい想いを反映したものを考えることができた。

## 【6】 謝辞

今回の大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムにおいて、数多くの方々にご協力・ご尽力いただきましたこと、御礼申し上げます。特に五明金箔工芸の五明様、実習先の下京いきいき市民活動センター 吉田様、池田様、京都市の尾池様、コーディネータの立命館大学 小辻先生、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の皆様には随所で大変お世話になり、心より御礼申し上げます。本インターンシップでの経験を糧に、今後の学生生活や勉学により一層励んでいきたいと思っております。